

出来事ファイル (No.22-7)

■実行委員長に矢崎和彦氏 就任

南京町商店街振興組合は4月22日(金)、午後2時から、ホテルオークラで「2022南京町春節祭実行委員会を開催した。席上、2019年から実行委員長を4期つとめられた(株)ロック・フィールド代表取締役会長の岩田弘三氏が勇退され、次期委員長に(株)フェリシモ代表取締役社長の矢崎和彦氏が就任された。



岩田会長 矢崎社長

■大丸神戸店長に今津氏就任

5月30日付けで、執行役員 今津貴薄さんが大丸神戸店長に就任されました。

■もとまちハーバー クリーン作戦

もとまちハーバー懇談会では、6月8日(水)正午12時から、地域一帯のクリーン作戦を実施した。参加企業はエスタシオン・デ・神戸、ネットヨタ兵庫(株)、(株)ベルコのみなさんでした。



エスタシオン・デ・神戸



ネットヨタ

□読者プレゼント

下記展覧会鑑賞ご希望の方は、ハガキに展覧会名・住所・氏名・年齢記の上、編集部まで。先着順で2名の方にペア招待券をお送りします。

◎出版120周年 ピーターラビット™展

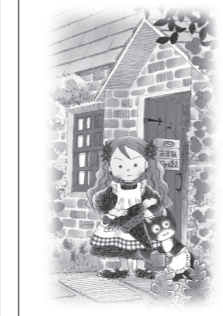
1902年、『ピーターラビットのおはなし』が出版されてから120周年になるのを記念して、誕生から今日に至るまでの歩みを、盛大なバースデーパーティをテーマに開催します。



『ピーターラビットのおはなし』挿絵原画)ピートルクス・ボター 1902年 ウォーン・アーカイブ/フレデリック・ウォーン社 © Frederick Warne & Co. Ltd, 2017

◎夏季特別展 あんびるやすこ作品展

2020年春、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会期短縮となった「あんびるやすこ作品展」の再開です。前回展示された新作の原画も新たに加わります。



©2022 Yasuko Ambiru

◎ディズニープリンセス展 WHAT IS LOVE? ~輝くヒミツは、プリンセスの世界に。~

展示は6つのエリアで構成され、ディズニープリンセスが教えてくれる“愛”を、映像やデジタル技術、音楽や香りなど、様々な手法を用いて五感で体験していただけます。



Disney ©Disney/Pixar

神戸元町 商店街 楽市楽座 情報 7月

◇こづべまづくり会館ギャラリー(無料) TEL.361-4523

7月 7日(木)~7月12日(火)第31回KP展
7月14日(木)~7月19日(火)
第24回遊遊会水彩画展

◇元町映画館(有料) TEL.366-2636

7月 2日(土)~7月 8日(金)
『王女メディア』・『テオレマ』・『親密な他人』
7月 2日(土)~7月15日(金)『百年と希望』
7月 9日(土)~7月15日(金)
『ゴースト・フリート 知られざるシーフード産業の闇』
『コットンダイアリー』・『ある感星の散文』

7月 9日(土)~7月22日(金)
『歩いて見た世界ブルー・チャトウインの足跡』
7月16日(土)~7月22日(金)
『シネマスコールを解剖する。
~コロナなんかつぶせばせ~』
7月16日(土)~7月29日(金)『こちらあみ子』
7月16日(土)~8月 5日(金)『教育と愛国』
【予定は変更になる場合がございます。】



柴町通まちづくり委員会は、6月10日(金)10時から10時30分まで、柴町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り

付け作業など、柴町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、(元栄海三丁目協和会)奈良山喬一、(株)イーエスプランニング)久米京子、(石倉デザイン)石倉伸吾、(株)KKテクノ)白川乙葉・久保友良寧、(神戸市)西尾俊広、(こづべまづくり会館)木原正剛、(神明倉庫(株)藤尾憲弘・大西登紀子、(大一産業)高橋美樹子、(兵庫県信用組合)石井貴久・井上博仁・藤本吉英・河村直樹・足立英則・魚田仁、(広島銀行)曾我部真介、(三鈴マシナリー(株)福岡千碩、(みなと元町応援隊)山口紀子・諫山一彦、(新光明飾(株)藤田直之・篠原博明・西村友博・大森貴美子、(佐田野不動産(株)佐田野宏之以上、25名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、柴町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。



編集後記

とこのコロナ禍、3年近く続いている。この間に、多くの人々が犠牲になり、多くの人が苦しんでいる。私たちは、この状況を何とか乗り越えたい。そして、少しでも早くこの状況を乗り越えたい。そして、少しでも早くこの状況を乗り越えたい。

みなと元町 TOWN NEWS

発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

まちづくりではなく、まちでニヤニヤする人を「まち活拠点まちラボ」

特定非営利活動法人 神戸まちづくり研究所 古川建太

些細な疑問から、まちと関わってみる

「西元町という駅名、どう思います?」

東京出身の私は初めてこの駅名を見た時、大手町や有楽町と同じく、西元/町というリズムから成るネーミングとして認識をしていました。時が流れ、神戸定住後に「そりゃ元町の西隣の駅だからね」と理解しましたが、同時にしっくりきません。そこで、その原因を私なりに考えてみました。

東西南北などの方角を冠する駅名には、以下のパターンに分類される

パターン①

東広島駅(広島県)や北広島駅(北海道)のような、本家の広島駅より離れた場所にあり、且つその名前が独立した地域名や行政区名にもなっていること「も」あるパターン。東京都にある東伏見駅もこれに該当し、京都の伏見稲荷に対して「東にある伏見」という区別を意味するものだが、行政区名にはなっていない。

パターン②

何も冠していない本家の駅が近隣にあるものの、それぞれが独立した駅勢圏を持っているパターン。西宮北口や南茨木などがこれに該当する。駅名が6文字以上の場合は「ニシキタ」や「ナンイバ」といった具合に略称が存在する傾向がある。東京でも荻窪の隣駅に「ニシオギ」と呼ばれる個性的なまちがあり、本家に向こうを張っている。

パターン③

何も冠していない本家の駅が至近にあり、且つ互いの駅が同一の駅勢圏内に存在しているパターン。西元町駅はまさにこれに該当する。同一路線上でもなく方角冠称でもないが、JRの須磨駅と山陽須磨駅なども広義でこのパターンに当てはまる。一般的にその両駅の利用者は、自分のまちを指す呼称としては無冠の方の駅名を用いる。

このように西元町はパターン③に該当

し、西元町駅すぐの場所でも「ここは元町、元町商店街やで」という認識の方が多い印象を受けます。実際、建物名に西元町を含むマンションがほとんどありません。その裏付けを、住宅地図が無言で語ってくれました。パターン②で6文字以上の駅名は略される説に触れましたが、西元町を「ニシモト」と呼ぶ人にも未だお目にかかっています。何が言いたいかというと、昭和43年に開業したこの駅の名前。元からあった地名を採用したわけでもなく、定着もしていないが故にしっくりきていなかったのです。



なぜか呼びたくなる駅名とは

時は既にコロナ後、2021年2月21日のイベントでした。その名も「西元町の駅名を考える会」というイベント。この日、まちづくり会館4Fまちラボに集まったイベント参加者は、大真面目に冒頭の疑問に対しての意見を交わしていました。因みにこのイベント参加者の大多数は、まちラボで結成された全国駅名研究会神戸支部のメンバー。彼らは所謂、鉄ちゃん。彼らにとっては愛の対象にあたる鉄道の、その駅名に対する議論は大いに盛り上がりました。そんな皆さんに共通していたことは柔和な笑み、というよりニヤニヤした顔。例えば、そもそも神戸高速鉄道の運賃形態がアカン、付近にあるハーバーランドを副駅名に示せ、大阪の天神橋筋六丁目や谷町九丁目のように親しみをもって略される駅名の方が際立つ、といった指摘や提案が次々と出されたのです。なるほど。今で言う「トー横」や「グリ下」と呼ばれる場所は良くも悪くも親しまれ、略称そのものがブランド要素を纏ったのかもしれない。かたや「ニシモト」とは呼ばれない西元町の場合、元町

ブランドという太陽のすぐそば過ぎたのでしょうか。

まずは愛すること、ニヤニヤすることから

駅名とは、時の地層に埋もれた地名の露頭。駅という施設名でありながら、もっと根深い道標でもあります。熟したダサさがありつつも問答無用の超絶カッコいい駅名や、歴史を吟味せず利便性だけ重視した一見キラキラしているものの超絶ダサイ駅名もあったりします。駅名に限らず大事なのは、地元の人の愛が反映されていること。当事者意識があること。我がまちの話真剣にすること。そして、ニヤニヤできること。

その上で、今から書くことがようやく本題だったりします。そう、コロナ禍で判明したことがあります。それは「趣味はコロナに打ち勝つ」という事実。大人の事情で軒並みイベントが自粛しようとも、本気で突き詰めたいことは粛々と遂行する。趣味というワクチンにかかれれば、コロナ禍は無力化されるようです。まちラボでは「何となく人が集まりそうだからやる」というイベントなら、やりません。マニアックだけど、好きなことでニヤニヤしたいことは、やります。まちラボは、そんな些細な「居場所」でありたいと思っています。

一見すると「西元町という駅名、どう思います?」も、今更感すら漂う些細な疑問です。とは言え些細でも疑問を持つことが肝要で、後で振り返ると立派な答えに結びついたりもします。そんな些細な疑問の蓄積が、実は健全なまちの血肉になっていて、結果論としての「まちづくり」なのです。つまり、思考をやめてはいけません。忘れたら思い出しましょう。無ければつくりましょう。もうそろそろ何も考えずに、はじめから「まちづくり」という言葉を振りかざすの、やめにしましょう。

「西元町という駅名、どう思います?」

先ず元町の地図を心に描いてみましょうか。そこには、相応しい駅名が記されるはず。これが、まちラボからの「答え」です...と、ニヤニヤしながら筆を置かせていただきます。

## 海という名の本屋が消えた (104)

平野義昌

光村弥兵衛・利藻(2)

1878(明治11)年弥兵衛は硫酸会社設立準備中、眼を患う。79(明治12)年両眼失明。80(明治13)年すべての事業から引退した。〈従来の商業を一切廃業し、平生功労ある傭人等には資金を与え、若しくは商業株を与えて、別に独立の商業を営ましむる〉註1

工業用途の広い硫酸製造を目指したということはまだまだ事業計画があったはず。その継続・承継は不明だ。82(明治15)年発行の『豪商神兵 湊の魁』(垣貫與祐編・出版、商店・観光案内)には「貿易商 神戸栄町通三丁目 光村弥兵衛」の記載がある。

弥兵衛は引退後も洋銀取引所頭取、運輸会社相談役、鉄道会社発起人など名誉職を務めた。私生活では北長狭通5丁目に新居を建築、禪に親しみ、福祉・奉仕の道を歩む。伊藤博文、品川弥二郎、烏尾小弥太ら長州閥の政治家や財界人の来訪は続いている。

弥兵衛の社会事業を見る。1878年「長州フェイス」山尾庸三（補註1）を通じて東京訓盲院に500円寄付。79年大阪の火災被災者に100円寄付。81(明治14)年大阪盲啞学校に36円寄付。84(明治17)年兵神明道協会（補註2）の仏教書千部(700円相当)購入。他に窮民救済、学校・幼稚園寄付、寺社寄進、西南戦争戦没者供養、航海遭難者供養など。81年皇后居造営費1万2千余円献納。87(明治20)年の海防費2万円献金により、90(明治23)年褒章、従六位を授与された。註2、補註3
〈君晩年に至りて頗る心を宗教及び道德の事に留め、明道協会及び諸寺院の維持の如きには、皆許多の義捐金をなし、以て護法の意を表したり〉註1

弥兵衛は横浜時代から連れ添う妻・たきとは別居状態だった。子はなく、後継者として山口の実家から養子を入れていた。1878年、大阪の別宅で側室シマが男子を出産、「利藻(としも)」と名付ける。海藻が繁茂するようにと将来の繁栄を祈った。本宅に引き取り正式な嗣子とし、養子は実家に帰した。シマを同居させたが、育児と弥兵衛の世話と家政全般の負担が大きすぎた。まもなくシマは去る。後年利藻が幼少期の思い出を語っている。楽しみは湊川神社散歩や港の船見物だが、悲しみは母と別れたこと。〈母の愛を受けることが、すくなかったために、つねになんとかなく淋しく感ずることが多く、いろいろなできごとなどで、深夜、布団のなかで泣きあかすこともあった。〉註3

弥兵衛は利藻を溺愛というほど大事に育てた。利藻は身体虚弱、温泉療養に有馬、道後、別府まで出かけた。父の愛を一身に受けたが、母に抱かれることはなかった。

1883(明治16)年利藻小学校入学(神東小だろう)。帰宅後、漢学塾と英語学校に隔日通う。学僕(同年齢の勉強・遊び相手)八木富次が付き添う。翌年兵庫県立師範学校附属小学校が開校し、転校。弥兵衛は京都の呉服商から紹介された荒木アサに利藻養育と家政を任せた。彼女の人柄を信頼し養女にする。

弥兵衛は寿命を悟り、事業協力者である住友財閥総理事・広瀬宰平(引退後は同・伊庭貞剛)に利藻の後見を託す。91(明治24)年2月、弥兵衛胃がんのため死去。数え年65。辞世、「塵の世のちりも払うて青空に浮ぶ心ぞたのしかるらん」「六十五つつんで消けり春の雪」註1

利藻は15歳、小学校高等科を卒業したばかりで光村家の家督を継いだ。最初に申し上げておく。利藻は莫大な遺産＝総額3千万円をスカラカンに使い果たす。放蕩道楽者か、趣味に生きたロマンの人か。『評伝』に従い年代順に彼の人生を追う。広い趣味と活動が同時進行する。

弥兵衛の遺志によりアサを保護者とするが、遺言書はない。広瀬後見人が光村家の財産を管理する。正妻たきが母として利藻養育を申し出た。遺産紛争である。広瀬はたきの主張を受け入れ、アサを分家とし、財産を与えた。この解決に1年半かかり、利藻は進学を機会を逸した。

1891年秋頃利藻の写真熱が始まる。友人と湊川神社門前の大黒座で芝居見物。芝居を撮っておきたいと考える。居留地トムソン商会で写真機を買えと教えられ、翌日すぐに購入、18円50銭。大金だが、写真機も現像材料も不完全なもの。帰りに元町2丁目市田左右太の写真館に寄る。市田は弥兵衛と親交があり、葬儀の模様を撮影した。利藻の写真機を見て、なぜ先に相談しないのか、と残念がりながら、撮影と現像の指導をしてくれた。撮影に時間がかかり、現像液の調合も難しい。利藻は家人たちや植木を写し、現像し、楽しんでいたが、次第に物足らなくなる。市田の紹介で大阪の商店から正真正銘の写真機材を購入した。また小学校卒業前後から友人と印刷と雑誌作りを始めている。これについては稿を改める。

93(明治26)年6月、前年からシベリアを騎馬で単独横断した福島安正中佐(のち大将)が神戸に上陸。市民の熱狂的な出迎えのなか、利藻は福島と愛馬を撮影し、後日写真を贈った。利藻初の軍関係写真である。

家の騒動が治まり、伊庭後見人が品川子爵と利藻の進学問題を協議し、慶應義塾に決まる。93年秋利藻上京。芝の邸宅で八木、中尾新太郎、泉谷氏一ら書生(事業でも仕える)と生活した。94(明治27)年慶應義塾入学。利藻は雑誌再開を思い立ち、出版社「博文館」支配人・大橋乙羽(本姓渡辺、尾崎紅葉の硯友社同人、大橋家に婿入り)を訪ねる。

95(明治28)年から利藻は二松学舎で漢学も学ぶ。この年6月、松平武修(たけなが)子爵の妹・藤子と結婚。水戸徳川家の血縁である。明道協会の目加田が縁談を持ち込んだ。ところが伊庭後見人に相談がなく、伊庭は辞任を申し出た。品川が説得して辞任撤回となったが、光村家と住友財閥との間にヒビが入ったと言える。同年利藻は写真愛好家の「大日本写真品評会」入会。会長は徳川篤敬侯爵(あつよし、旧水戸藩主)。華族階級との交遊が深まる。96(明治29)年6月長男利之誕生。

94年日清戦争開戦。95年利藻は神戸大黒座でしばしば自費で幻灯会を開催し、入場料収入を兵庫県経由で海軍に献金した。96年連合艦隊旗艦「松島」が神戸入港。県の紹介状を持って艦長に面会し、艦内撮影の許可を得た。海軍は軍拡予算獲得のため国民へのPRと考えた。利藻は写真集を作成して献納し、海軍と深い関係ができる。特に齋藤実少佐(まこと、のち海軍大将、二・二六事件で死亡)との交際は後の事業に影響する。98(明治31)年米西戦争派遣艦に泉谷が同乗して撮影。1900(明治33)年神戸港大観艦式他、海軍行事を撮影を担当し、天皇に献上。すべてボランティアながら海軍御用達写真班になる。

1898年3月利藻は神戸の第六十五銀行(光村家は株主)取締役就任。5月諏訪山の常盤花壇で成年披露祝宴を盛大に開催。これを

期に伊庭＝住友財閥は後見役を退いた。

さらに趣味が広がる。美術・書画・骨董愛好は、97(明治30)年利之初節句の甲冑・太刀購入から始まる。利藻の記憶では98年頃活動写真撮影機一式、X線装置一式、蓄音機、自転車購入。雑誌発行もある。頻繁に東京・神戸を往復し、勉強の暇はなかったろう。

まず映画撮影について。神戸利藻邸に東京の小西屋六兵衛店(現コニカミノルタ)が活動写真撮影機を売り込みに来た。ちょうど三井呉服店(現在三越伊勢丹)写真部の柴田常吉が来訪中だった。利藻は庭に舞台を設え、祇園の芸妓を呼び寄せ、柴田にその舞踏を撮影させた。次いで撃剣試合と海岸風景も撮影。現像焼付は小西屋の浅野四郎に任せた。

銀座の広告会社・広目屋が祇園芸妓の舞踊「潮来出島」「道成寺」を譲り受けた。99(明治32)年6月から本郷中央会堂、歌舞伎座、明治座他で東京風景や新橋芸妓の舞踊などの活動写真と共に公開した（註4）。その後、柴田が九代目市川團十郎と五代目尾上菊五郎の実演撮影を思い立ち、利藻に兩人説得を願う。利藻は若年だが、俳優や歌舞音曲師匠連の後援者ゆえ発言力がある。99年11月(撮影日は諸説あり)、歌舞伎座裏の芝居茶屋の庭で名優「團菊」共演「紅葉狩」が撮影された(YouTubeで視聴可能)。この活動写真は「團菊」の姿を後世に残すという企画だったため、彼らの生存中は公開されなかった。

以上のことから『評伝』は利藻を日本初の活動写真撮影者とするのだが、正確にはスポンサー・プロデューサーだろう。映画史文献に撮影者「柴田常吉」の名はあるが、「光村利藻」の名は登場しない。

註1 中西牛郎編・発行『従六位光村彌兵衛傳』 1894年
註2 古谷玲子「中途失明者・光村弥兵衛の生涯」(『豊歴史研究』第83号、近畿豊史学研究グループ2020年)
註3 増尾信之『光村利藻伝』 光村原色版印刷所1964年
註4 「入江良郎 最古の映画について――小西本店制作の活動写真」https://www.momat.go.jp/ge/wpcontent/uploads/sites/2/2015/01/13\_pp65\_91.pdf

補註1 山尾はイギリスで造船・工業技術を学び、社会福祉にも目を向けた。帰国後工部省勤務。工部寮(東京大学工学部(母胎)設立、技術者養成に尽力。盲聾哑教育も推進。
補註2 「註」1に、明治16年烏尾徳庵(小弥太)、山岡鉄舟、目加田栄(旧水戸藩主)らと設立、とある。仏教を軸に福祉事業を行なう。
補註3 当時総理大臣の年俸9千6百円。週刊朝日編『値段史年表 明治・大正・昭和』(朝日新聞社 1988年)より。写真、「註」3より。明治27～8年頃、中央が利藻、左八木、右泉谷。
\*引用文は新字新かなに改めた。



## みなとM・I・O・M・A・C・H・Iケンチクさんぽ vol.12

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部

兵庫地域会 地域まちづくり委員会

## 「みなと元町」らしい街並み

日本建築家協会 近畿支部 兵庫地域会(JIA兵庫)地域会長の菅原英房です。JIA兵庫では地域まちづくり支援活動として、建築家がみなと元町を散歩して想う事を本誌にて発信しています。東京で育ち社会人になった私は、神戸芸術センターという建物の設計監理で初めて神戸に来ました。1,100席の劇場や300席の音楽ホールなどで構成される神戸芸術センターは、芸術活動で地域に貢献するために賃貸住宅、オフィス、医療施設、スポーツクラブなど事業全体を安定化させる仕組みが採用されました。神戸芸術センター竣工後も、その運営に関わりながら新規案件を進めています。神戸に来た当時は結婚したばかりで、お世話になった方々へのお礼を選ぶためにおしゃれな雰囲気元町を歩きました。妻は栄町ビルディング1階の小物・洋服屋が大変気に入った様子で休日の度に出かけました。



旧神戸郵船ビル



窓際に並ぶ商品(乙仲)



元町商店街



栄町通り



栄町通り

にはなり得ません。歴史的建築物自身の魅力を信じ、活用のアイデアについて議論を継続して深める必要があります。これまでに実績を重ねてきたJIAの公益活動は、社会の変化に合わせて効果を高めています。

中小規模の事務所建築が集積した乙仲通りは、上手に用途変更した店舗が自然発生的に展開する大変興味深い地域です。飾り気のない事務所建築と対照的に、開放的な路面店や上階の横連窓に商品が賑やかに並べられる風景は鮮やかです。栄町通りや海岸通りに面したオフィス・金融街は、企業の撤退・再編が続く一方で高層マンションが建設され居住人口が増加しました。周辺の変化と共に元町商店街でファッション系店舗が減少に転じ、日用品販売店や飲食店が増加して地域を支えているそうです。商店街は統一的なレンガ舗装で美しい雰囲気を継続してい

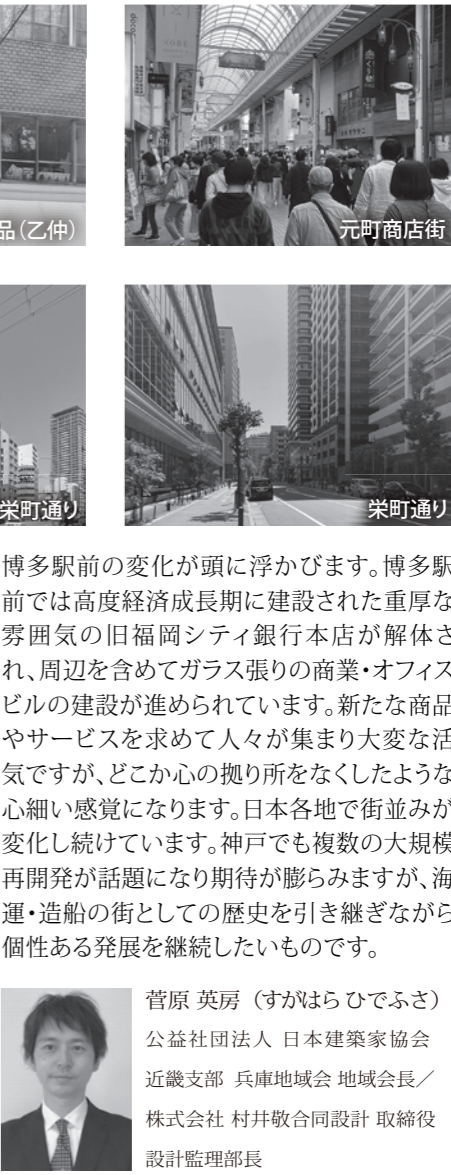
みなと元町界隈の歴史を学ぶにつれて、空襲、災害、経済不況などによる街並みの消失と復興する力強さに驚かされます。埠頭や造船の街として栄えたみなと元町界隈は、返還された居留地と一体となって金融・ビジネスの中心地に発展し近代西洋建築が建ち並んだと聞きます。それら建築の多くが現在までに失われ、残された数少ない歴史的建築物も社会情勢の変化により困難な状況にあります。旧居留地にて長谷部鋭吉が設計した神戸銀行協会ビルは来年に解体予定で、11階建てオフィスビルに建て替えられるそうです。今朝に各行員が集まって行われた手形交換業務は電子化が予定され、手形交換所としての手数料収入に代わる新たな事業の組み立てが求められています。一方で設備の老朽化、外壁や防水の劣化、耐震化など施設管理コストは所有者に大きな負担である事は言うまでもありません。アイデンティティとして歴史的建築物を活用したいと所有者が望んでも、建て替えや売却を避けることが困難

な現実があります。全国各地の歴史ある銀行協会ビルも同様に取り壊しが懸念されています。

曾襈中條事務所が設計したみなと元町エリアの旧神戸郵船ビルは大変印象的です。20世紀初めに各地で近代西洋化を進めた曾襈達蔵は、街並みに影響を与える公共財的な建築を多数設計しました。第三波止場面に面する旧神戸郵政ビルも、海運・造船の街を象徴する建築として街づくりの手本になったと想像します。数年前に所有者が変更されたと聞きますが、将来に引き継ぎたい建築のひとつです。歴史的建築物を維持するには軸となる収益が求められますが、隣接して収益施設を建設し全体的な事業を成立させる手法が取られます。歴史的建築物のブランド力を借りて収益施設の認知を広げ、またスタッフを兼ねるなど運営管理の体制合理化を図る仕組みです。しかしながらオフィスや住宅などストックが供給過剰の現在では、新たに事業床を増やす事で長期的に安定した事業

ますが、店舗が入れ替わる度に敷きレンガを撤去・敷設し同仕様のレンガを入手するのに苦労していると聞きました。JIA兵庫では防汚性能、防滑性能、耐荷重に優れて既存に馴染むレンガの選定を支援しました。複数の製造者からサンプルの提供を受け、3ヶ月程度の暴露試験を実施しそれぞれの性能を確認しました。愛知県のレンガ工場にて材料成分、成形過程、焼成温度などを確認して製品との比較をレポートとして整理しています。街並みの雰囲気を継続するには、手を入れながら愛着とノウハウを引き継いでいく事が欠かせません。変化を続ける街並みに、JIA兵庫は地域まちづくり支援活動で貢献を継続します。コロナ禍を抜けた後には、みなと元町らしさを活かして賑わいが増すことを期待しています。

街並みについて考えるたびに、福岡県の



菅原 英房 (すかやら ひでふさ)

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部 兵庫地域会 地域会長／株式会社 村井敬合同設計 取締役 設計監理部長